第24回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム 16th EAJS International Conference共催　2021.8.27

日本語教育における「共生」をテーマとした授業実践

東海大学 山森 理恵

Practice in Japanese-language Class with a Focus on "Coexistence"

Tokai University Michie YAMAMORI
myam@nifty.com

1.はじめに

・「共生」…「民族、言語、宗教、国籍、地域、ジェンダー、セクシャリティ、世代、病気・障害等をふくむ、さまざまな違いを有する人々が、それぞれの文化やアイデンティティの多元性を互いに認め合い、対等な関係を築きながら、ともに生きること」（河森他(編) 2016: 4）
・分断が深まる中、一人一人が、異なる立場を理解し、共生実現のための問題点に気づき、解決する方法を考え、自ら行動することが必要
・教育の場で、そうすることの重要性に気づく機会、それを経験する機会を提供することが必要…日本語教育の場においても

2.日本語教育における「共生」につながる取り組み

・これまでも日本語教育において、共生につながる議論（稲垣他：2020、名嶋(編)：2019）、共生につながる実践が行われてきた（森山：2019、山森：2021など）
・「共生」につながる取り組みは、より多くの場で行われるべき

3.本研究における実践

・別科日本語研修課程の留学生向け授業、主に協定の学生向け、日本語科目であるが4技能以外に焦点を置く科目という位置づけ、2019年度秋学期に実施

授業の目標：
①異なる人が共に生きるうえでの問題点について考え、どうしたらそれが解決できるか、自分にできることは何かを考える
②日本語を使って①ができる、　③わかりやすい伝え方ができる

受講生：日本語レベル中級から中上級の24名
［本研究の分析対象は協力の得られた15名（ノルウェー4,台湾3,サウジアラビア2,アンドラ,ウクライナ,韓国,スペイン,ドイツ, モンゴル各1）］

授業概要：

表１　授業の概要

様々な内容の、共生について考えるための漫画・記事を読んだうえでディスカッション（4回）	教室内活動
学部の授業と合同でワールド・カフェ（様々なニューストピックについて意見を述べ合う）	教室外活動
日本に住む外国ルーツの子どものための学習支援教室訪問サポート体験 ⇒定住外国人は共生の問題における弱い立場の当事者　その子どもたちと接し、弱い立場の視点から共生について考えるため	教室外活動
グループ発表（自分たちが興味のあるテーマ(自分の国、日本、世界の社会問題)、聞く人が共生について考えるきっかけになるようなテーマ）	教室内活動
発表テーマの問題について、各自日本人に意見を聞くインタビューを実施し、報告	教室外活動

グループ発表のテーマ：「パレスチナ問題」「男女平等」「メディアが描くLGBT」「日本のいじめ問題」「台湾のLGBTの現状」「警察による人種差別」

4.分析

分析方法：受講生が提出した以下の作文・コメントシート・発表PPTの内容に対しコーディング

表２　分析対象とそれぞれに対する受講生への指示内容

初回作文	「共生(＝立場のちがう人がいっしょに生きること）」について、自分の意見や考えと、その理由を、具体的な例をあげて書いてください。
訪問体験後のコメントシート	・サポート体験をしてどう思いましたか。・質問を1つ書いてください。・ふり返りのとき聞いたこと、ふり返りをして思ったことを書いてください。
グループ発表	・テーマの問題点　　・自分たちが考える解決策、または考えられること
インタビュー報告（意見を述べる部分）	・インタビューで出た意見に対する自分の意見、インタビュー結果をもとに考えた自分の提案
ふり返り作文	これまでの授業を通して、新しく知ったこと、考えたこと、学んだことについて書いてください。

以下の内容が含まれていたか
（「　」は以下の記述が含まれていた場合のコード名）
異なる他者を理解する・存在を認める　「他者理解」
問題点への気づき・意識　「問題点」
問題点の解決方法　「解決方法」
今後自分にできること　「できること」

5.結果と考察

表３　受講生の記述例（原文ママ、［］は発表者補足）

この報告を通して、彼らのこともっと理解した。彼らと普通の人は同じだ。彼らも食べたり、寝たりする。彼らも自分の気持ちがある。それに、彼らは好きな人がいる。ただ、好きな人は異性に限定されないんだ。（インタビュー報告：受講生K）	他者理解
言葉による悪口．暴力によるも．SNSでの批判．両親によるDV等数え上げたらキリがありません。（インタビュー報告：H） 世界中に偏見やステレオタイプがありますが、それを変えるべきだと思う。（インタビュー報告：F）	問題点
LGBTの理解を広めることは、どうすればいいか。私は、教育が人に与える影響が大きく、やはり教育から認識を広める方が一番いい方法なのではないかと思う。まず、小学校からLGBTの課程を入れるべきという法律を作らなければならない。（インタビュー報告：J）	解決方法
私はLGBTが好きではないけど、彼らが好きな人や欲しい家族を持つことを尊重する。（インタビュー報告：K） 今後もそれ[いろいろな国のLGBTQやいじめやほかの差別の問題]についてもっと考えようと思っています。（振り返り作文：I）	できること

・学期開始時は「問題点」「解決方法」を指摘する受講生は一部（「経験」について書く受講生が多かった）
・訪問体験後も「他者理解」「問題点」「解決方法」を指摘する受講生は一部（「経験」「感想」が多かった）
・グループ発表では「他者理解」「問題点」をすべてのグループが指摘。「解決方法」もほとんどが指摘（↑発表の目標として明確に指示されていた）
・学期終了時は、全員、インタビュー報告、ふり返り作文のいずれかで「問題点」を指摘し、「解決方法」もしくは「できること」を指摘。発表で「解決方法」を示せなかったグループも学期終了時のインタビュー報告では示せていた
・ただし、「解決方法」「できること」は具体性に欠けるものも多い

➡さまざまな問題について考える機会・過程を経ることで意識が育まれる可能性示唆
解決方法や自分にできることを具体的に考えることはなかなか難しい

表４　受講生ごとの言及の有無

	学期開始時				学期途中								学期終了時							
	初回作文				訪問体験後コメントシート				グループ発表 1)				インタビュー報告				ふり返り作文			
受講生	他者	問題	解決	できる	他者	問題	解決	できる	他者	問題	解決	できる	他者	問題	解決	できる	他者	問題	解決	できる
A		●							●	●	●		●	●	●					
B		●							●	●	●			●	●		●	●		
C					– 2)	–	–	–	●	●	3)			●	●		●	●		●
D									●	●	●			●	●		●	●		
E		●				●			●	●				●	●		●			●
F					●				●	●				●	●		●	●	●	
G		●			●				●	●	●		●	●	●	●				
H									●	●	●			●	●			●		
I		●							●	●	●			●	●		●			●
J		●							●	●	●			●	●		●			
K					●	●	●		●	●	●		●	●	●	●	●			
L			●		●	●			●	●	●			●	●		●		●	
M									●	●	●						●	●		●
N	–	–	–	–	–	–	–	–	●	●	●							●		●
O					●				●	●	●			●	●					

1）受講生AB、CD、EF、GHI、JKL・MNOは一つのグループで発表
2）「–」は欠席／未提出
3）このグループは各自意見を別々に述べていたため、各自の意見の部分は分けてコードを付与

6.まとめと今後の課題

・学期を通して様々な取り組みを行うことで、共生に対する意識や問題点への意識を高め、解決策や自分にできることを考える力を育むことは可能
・より多くの日本語教育の場においても、このような共生する人を育む取り組みを行っていくべき

〈今後の課題〉共生のための問題点・解決策・できることを深く考えるために
・受講生に対し、授業の目標をより明確に示して、意識づけを行う（一つ一つの活動の指示の仕方を工夫するなど）
・考えや議論を深めるため、一つ一つのテーマのコメントのやりとりや議論をもう少し継続して行う
・より自分に引きつけて考えられるようにトピック選びや活動内容をさらに工夫する

＜参考文献＞
稲垣みどり・金泰明・細川英雄・杉本篤史（2020）「共生社会のための日本語教育」『2020年度日本語教育学会秋季大会予稿集』：26-35.
河森正人・栗本英世・志水宏吉（編）（2016）『共生学が創る世界』大阪大学出版会.
名嶋義直(編)（2019）『民主的シティズンシップの育て方』ひつじ書房.
森山新（2019）「日韓の共生をめざす日韓大学生国際交流セミナーと教師の役割」『人文科学研究』15：121-134 お茶の水女子大学.
山森理恵（2021）「東日本大震災について考える日本語授業 －民主的シティズンシップを育むことを目指して－」『ときわの杜論叢』 8：79-89 横浜国立大学国際戦略推進機構.